

# Challenge Challenge

私たちのチャレンジの軌跡

2007



三重県



## はじめに

日本の女性は人口の半分を占め、世界最長寿の健康に恵まれ、世界有数の高い教育を受けています。しかし、女性の能力は、今、社会で十分に活かされているとは言えません。

21世紀の日本は、あらゆる分野で新しい夢と希望を、新しいアイデアを、新しいエネルギーを必要としています。

女性のチャレンジは社会に活力を与え、ひいては、男性も元気にします。

こうした考えのもと、国では、意欲と能力のある女性が社会で活躍し、男性もゆとりある生き方をめざす、暮らしの構造改革の実現に向けて、皆様のご理解を得ながら、「女性のチャレンジ支援」を進めています。

また、少子高齢化が進む中、活力ある地位社会を引き続き維持していくためには、女性等が自己の適性や希望を客観的に見極め、意欲や能力に応じて社会の様々な分野で活躍できるようにすることが重要です。

このため、三重県では、女性が就業をはじめとした社会参画を通じて、自己の能力を十分発揮できるようにする「女性のチャレンジ支援」を進めています。

この事例集は、その一環として作成しました。チャレンジを考えている女性たちにとってヒントとなり、これから新たな一歩を踏み出すきっかけになれば幸いです。

## 目次

### 事例集

#### 「私たちのチャレンジの軌跡」

事例 1	児玉 全代 さん	4
事例 2	山田 雅子 さん	6
事例 3	吉田 佳代 さん	8
事例 4	中野 雅代 さん	10
事例 5	伊串 亮子 さん	12
事例 6	中井 敦子 さん	14
事例 7	向井 貴子 さん	16
事例 8	安本美栄子 さん	18
事例 9	井谷三枝子 さん	20
事例 10	東 稔子 さん	22
事例 11	徳本 末子 さん	24
	中村 伸子 さん	

三重県チャレンジサポーターについて	26
-------------------	----

#### 資料編

「三重県内の主なチャレンジ支援機関」	27
--------------------	----



## 私たちのチャレンジの軌跡



アイデアと熱意で起業！  
 たくさんの笑顔と信頼をつなげて



有限会社おそうじ一番取締役

児玉 全代<sup>まさよ</sup>さん

三重県員弁郡東員町

#### プロフィール

会社のイメージキャラクターの「掃除機に乗った魔女」には、古い考えを捨てて前向きに新しい技術を取り入れて伝えていきたいという思いと、主婦（家事）の考えも変えていきたいという思いが込められています。男の子2人と双子の女の子の4人のお母さんでもあり、のびのび育てて成長されたお子さんは海外にも羽ばたいています。

### 子どもの夢をかなえたい

児玉さんが「おそうじ一番」をスタートさせて、11年。起業のエネルギー源は4人のお子さんです。当時、高校3年生・中学2年生の息子さん、小学5年生だった双子のお嬢さんは、やりたいことや夢が見え始めた時期でした。「子どもが4人もいると、夫一人の収入ではまかないきれないことがあります。仕事に出ても、これといった資格も持っていなかったのがんばりが認められないこともありました。なんとか自分のアイデアで4人の子どもたちを将来やりたいことに向かわせてやりたい、と思ったのです。」

仕事を決めるにあたって、タウンページを1ページ目から丁寧に目を通していきました。お掃除代行会社を選んだのは、世の「お母さん」の後押しをしたいと考えたから。「家庭は家族の心のエネルギーを補充する場所、それを整えるのがお母さんの役目だと思う。女性が社会に出ても家庭を守っていきける、その手助けをしたいのです。」

お掃除の技術を覚えるのは体当たりでした。近くのコンビニエンスストアに出入りしている業者さんに直接交渉してポリッシャーの使い方を教えてもらったそうです。また、特殊な技術を持つ人がいるという話を聞けば、行って教えるを請うこともあったそうです。

### 笑顔が見たくて

起業した時も今も変わらず一番大変なのはスタッフ集めだという児玉さん。

「友人の紹介や、1日100件くらいを訪問して声をかけました。お客さまのプライベートな空間に立ち入るため、スタッフは人間性重視。信頼の置ける方、お客さまを和ませるような方に来てもらっています。」

また、決まった単価表もありません。「きれいにして欲しい」の一言でも、お客さまによって要求されるレベルは違います。事前の打ち合わせを入念にすることで、お客さまの満足度を高めているそうです。「特に宣伝もせず、ほとんどが口コミなので、1つの結果が次につながっていると思います。」と児玉さん。時には現場帰りにスタッフとランチに出かけることもあります。「お客さまの笑顔を見たいね、というのはスタッフから出た言葉です。私にとってはお客さまと同じようにスタッフの笑顔も大切です。」

## 信頼とありがとう

「お掃除会社をやろう！と言ったのは私ですが、組み立ててくれたのは周りの人たちなんですよ。」と児玉さんは笑います。今ではリフォームの仕事も手がける「おそうじ一番」。力を貸してくれる協力会社も、仕事を通して知り合った信頼のおける会社ばかりです。インタビューのなかで、「信頼」という言葉が何度も出てくるのがとても印象的でした。一緒に仕事をする仲間も、お客さまも、とても大切に思っている児玉さん。

起業して良かったと思うことは？の問いに、「ありがとうって言えること。スタッフ、家族、周りの人、庭のお花やペットにまでありがとうの気持ちがあります。問題を乗り越えられるのはアドバイスをしてくれる人がいてくれたから、支えてくれる周りの人がいてくれるから、ありがとう。スタッフがいてくれたから仕事ができる、ありがとう。仕事をするなかで、お客さまから『ありがとう』って言われて初めて、自分も人に言えるようになったのかもしれないね。」また、これから起業を考える方へのメッセージは？の問いに、「お仕事は人生そのもの。自分の心にうそのない仕事をして欲しい。何をしたいかの目的意識がはっきりすると一歩踏み出せますよ。」とのエールを贈ってくださいました。

(平成20年1月取材)



夢を持ち続けて・・・  
専業主婦から作家・  
起業家へ転身



株式会社塩浜地所代表取締役

**山田 雅子**さん

三重県四日市市

プロフィール

- 1938年 札幌市にて出生  
2人の息子の成長を待って  
シングルとなる。
- 1986年 単身三重県津市に移住。
- 1991年 52歳で宅地建物取引主任者の  
資格を取得、不動産取引  
の業界に踏み込む。その間、  
結婚式場の司会、長編小説  
出版等、自己啓発のための  
手段として各方面に手を広  
げる。
- 1996年 不動産会社設立。  
事業用地の紹介を専門に営  
業、現在に至る。

自立の必要性を感じて

山田さんは、子供の頃から好奇心が強く、チャレンジ精神は持って生まれたものだとご自分を分析しています。当時の時代背景か、その性格によってか、女であることへの世間一般の概念からは大きく外れ、両親を悩ませたそうです。

1959年結婚、心のどこかに引っかかりを持ちながらの結婚生活でした。夫は転勤族で、転勤の度に見知らぬ土地に住む面白さは格別でしたが、マンモス社宅生活の中での毎日にはなかなか馴染めず、外れ者の仕打ちにも遭いました。また子どもは男の子2人で、できる限り母親の色に染めないように自然に任せ、衣食住を完璧にすることだけに専念しました。

一方、小さい頃から作家を夢見ていたので、結婚後も本を買い勉強を続けました。夢を持ち勉強に没頭する姿を見て、ある時息子が一言、「思うように生きてみたら・・・」この言葉をきっかけに46歳でシングルになり、ゲーテ詩集と平塚雷鳥の本を胸にいだき、トランクーつで、見知らぬ町“三重県津市”に移り住みました。

ピンチをチャンスに、作家+起業家

安アパートで、ラジオ、辞書、原稿用紙だけの生活が始まりました。求人のはり紙を見て、見よう見真似で、結婚式の司会、コピーライター、パンフレットづくり、水商売などあらゆるアルバイトで生計をたてながら、長編小説を書く生活を続けていました。



小説の執筆以外の生きがいを求めて、立ち寄った本屋でたまたま見つけた国家試験の宅地建物取引主任者に、52歳のときに独学で挑み合格しました。資格を持って不動産会社に就職したものの、組織の中での歯車にはなり切れず退社、共同経営を経験したあと、1996年自らの会社を起業しました。仕事をしながら小説も書き、長編3編を出版、現在も次回の出版に向けて作品を書き留めています。

「物事には一切無駄なことはない！」と確信したのもこの頃です。戸建てではなく勝負をかけるような意気込みで向かう事業用物件を専門に扱うことで、仕事の「楽しさ・面白さ」と「醍醐味」を感じるそうです。男性中心の社会ですが、ご自身の経験を生かした「独自のアプローチ」で活躍されています。

## 余命2年のガン宣告から10年

会社を立ち上げた翌年、59歳で乳がんを患い余命2年の宣告を受けました。しかしなんの動揺もなく、むしろ仕事への勢いが増し、仕事に向かう喜び、関わる人達への感謝の思いが、全部生きる力と原動力に変わっていきました。

宣告から10年、転移も3回に及んでいますが、その都度大仕事に挑み思いを遂げています。山田さんは「ガンからの贈り物はすこぶる大きい。人間にとって期限をつけられるということは、手持ちの時間を有意義に使うものであると、つくづく実感させられる。」と話しました。

現在も抗ガン剤の治療を受けながら、北は北海道、南は九州まで東奔西走、「日々更新の毎日です。」と前向きです。

## 夢をあきらめるな

「挫折のない人間なんて信じない。成功する、夢を掴むことは挫折の上にしかな芽生えない花だ。」と思っています。若い頃、女性の哲学者（シモーヌ・ベイユ）の著書の中から「みじめさの恩寵」を学び取り、それが今日までの生きる礎になっています。「あきらめられる夢なら見ない方がましだ。夢という言葉からの魔法に掛けられるだけの夢なら、やはり見ない方がましなのかも知れない。」と話す山田さん。

座右の銘は「わたしはできる。わたしならできる。わたしでなければできない。」

（平成20年1月取材）



年齢は関係ありません  
夢に向かっているキャリアアップは、



三重県立総合医療センター  
産婦人科医

**吉田 佳代**さん

三重県四日市市

プロフィール

大阪府出身、H3年大阪府立看護短大卒業、H10年同志社大学文学部心理学専攻卒業、H16年山口大学医学部卒業  
現在三重県立総合医療センター産婦人科勤務  
日本産科婦人科学会・日本産婦人科学会、日本乳癌学会

看護師から医師へ

三重県立総合医療センターに勤務する吉田佳代さんは、日本の産科医療を支える貴重な産婦人科医師。週10回以上の手術、月8回の当直、月14回程度の待機（病院へ30分以内で駆けつけられる）など、男性医師同様のハードな毎日です。身のふり構わず、化粧気もない人かと想像したらとんでもない、美人で、カッコイイ！働く女性として、仕事も家事も両立しています。

吉田さんは、看護師から医者という異色の経歴をもつ苦労人でした。

「人と接する仕事がしたい、女性として結婚してもできる仕事、経済的に自立していくには、看護師が一番」と考えて看護師になりました。やりがいを感じるものの、もっと自分の判断で仕事がしたい、主導権のある仕事がしたいと強く思い、カウンセラーになる決意をし、同志社大学へ入学。

臨床心理士をめざして、カウンセリング等の実習を行っていたとき、カウンセラーがAの判断を下しても、医師の診断でBに変更、また薬剤使用の治療法をとることもあり、再び看護師のときと同じ気持ちを味わいました。

「自分のやりたいことは、サポートの仕事ではない、自分の意思や判断で仕事を進めたい。私はやはり医者になりたい、絶対医者になる！」と決意します。このとき吉田さんは大学3年生でした。

4年制大学に在籍しながら、予備校へ通う日々。はじめのうちは、看護師のアルバイトをしながら予備校の授業料を工面する苦学生。夜勤明けの日は、がんばる意志はあっても体がついていけない、刻苦勉励の日々だったそうです。

さらに追い討ちをかけて立ち足だかるのは、家族の反対。「今までの仕事で十分やっていけるじゃないか。今さらまた勉強して、なんで医者を目指すのか。」と、お父さんは勉強の邪魔までして反対表明。

しかし、「自分の思いを理解し応援してくれるのは両親、自分の夢を支えてくれるのは両親しかいない」と考え、何度も何度も話し合い、自分のビジョンを語りました。それによって、強く反対していたお父さんの理解を得ることが



できたそうです。さらに経済的フォローを頼むことで、医師への確実な階段を登ることが現実となり、28歳で医学部に入学されました。

## 産婦人科医として

医学部の中でも産婦人科医を目指したのは、手術など外科系に興味を持っていたことと、女性の一生を診られるのは、この科しかないと考えられたからです。

「病気の不安を抱えた手術前の患者さんは、ノーメイクで顔色が冴えない。でもね、退院される時はパジャマから普段の服に着替えられて、きれいにお化粧をされるとびっくりする。綺麗だなんて。普段の様子が想像できて嬉しいです。不安が消えて晴れやかな顔で帰られる姿を見るたびに医師としてのやりがいを感じます。」と語られます。何歳になっても女性として輝いているのはどの世界でもいいものです。

時には、「どうして、ここまで放っておいたの。」と哀しくなる患者さんがいるそうです。そのような女性ほど家事や子どものことを優先し、とことん病気が悪化してから来院される、もっと早く受診をしていれば治せたのにと、大変悔しく思われることもあるそうです。今後は予防医学や検診に力を入れていきたいと話されます。

吉田さんは、女性が仕事を続けていくためには、働きやすい職場の体制作りを考えておられます。例えば女性同士でグループを作り、多人数でサポートしながら仕事を継続している人たちのように、女性パワーで男性に迷惑をかけないで仕事をしたいと考えておられます。

「これから迎える自分の出産や育児に対して、仲間や家族と協力し、医師の仕事も、家庭生活も大切にしていって乗り越えていく」という意気込みが感じられました。

## めざすはOnly oneの医師

「医師としてまだまだ新米」と言われる吉田さん、先輩について手術を多く重ねるなど研鑽の日々です。

医師としてめざすはOnly oneの医師、「ぜひ吉田先生に診てもらいたいと求められる医師に、産婦人科医師としてOnly one、プロフェッショナルでありたい」、そして、経済的な苦勞をかけた両親、いつも心配ばかりかけている二組の両親を幸せに、先輩医師に恩返しをする人間でありたい、夫への感謝の気持ちをお忘れな妻でありたいと語られました。

## これからチャレンジする方へ

私は医師になるまで、ずいぶん回り道をしたように思います。時間的に、体力的に、経済的に苦しいときがありました。しかし、どんなに辛いときも「自分だけがしんどいんじゃない、どんな仕事にも苦勞があり、みんながんばっているんだ。」と、考えることで乗り越えることができました。自分がやりたければ、協力者を巻き込んで、自分の殻に閉じこもらず、周囲の人と確認しながら進めていくことです。

「夢に向かってのチャレンジに、年齢は関係ありません」

(平成19年12月取材)



わたしだけのケーキがお客様に喜んで  
いただける嬉しさを原動力に



milk有限会社取締役

**中野 雅代**さん

三重県鈴鹿市

#### プロフィール

1986年7月地元鈴鹿で、洋菓子・パンの製造および販売、喫茶を、スタッフ5名（本人・母・妹・調理学校同期の友人）で開始。

結婚・出産を経て、2005年 現在地へ移転。

現在、本人・夫を含めたスタッフ13名とともに、洋菓子（本人担当）・パン（夫担当）の製造および販売、食事・カフェを展開。

### やりたいことをやってきた中から つかんだ偶然のチャンス

高校を卒業し車関係の会社に就職しましたが、その仕事を続けることに疑問を感じ1年後に退職。花嫁修業にもなるだろうと四日市にある調理師専門学校に入学。調理師専門学校へ通うかたわら、ケーキ屋さんでアルバイトしていましたが、小さい頃近所のおばさんが作ってくれたクッキーがうれしく、自分も人を喜ばせるお菓子を作りたいと、製菓学校への進学を決意しました。しかし当時、製菓専門の学校が地元にはなく、大阪にある学校を目指し、以前からのアルバイトに加えて、さらに1年間アルバイトをして学費を貯めました。学校は楽しく、卒業後は後輩たちを教える側になろうとも考えていましたが、たまたま不動産屋さんからの勧めで店舗を借りる話が進みました。最初、家族は開業に反対でしたが、「赤字が3か月続けばやめる」ことを条件に家族の了解を得ました。資金は自分の貯金だけでは足りず、今のように女性の起業への助成制度もなかったため、父親の保証による銀行からの借入金により、「milk」をスタートさせました。スタッフは、母・妹・製菓専門学校同期の友人2名。雅代さん26歳の時でした。

### あきらめず肩ひじ張らず80%で続けたら ピンチも変わる

“他の店で売っていない「わたしだけのケーキ」を作りたかった”のがケーキ

#### 設立

1986年7月13日

スタッフ：13名

◎主な事業内容

洋菓子・パンの製造および販売、

食事・カフェ

鈴鹿市寺家7丁目19-13

TEL：059-388-0369

FAX：059-386-0081

<http://www.cake-milk.com/>

屋開店の原点でしたが、やはり最初はなかなか売れず赤字が続きました。既存店からは「創作ケーキの店はできない」とも言われていましたが、「できない事はない。自分でしてみる」と創作ケーキばかり作りました。捨てればゴミの売れ残りケーキもお客様に味見用としてサービスすることで、お客様の声を聞く大切なツールとして活用するなどにより、開業4か月目には赤字を脱することができました。テレビ、雑誌で紹介されて「Milk」の代名詞となった大きなシュークリームも、偶然、パイとシュークリームがくっついて焼き上がったものを店頭に出したところ、男性客から大きくて食べやすいと好評を得たのがきっかけでした。

第一子の妊娠でつわりが重く仕事をこなすのが大変だった時は、寿司職人だった夫の強さんが見るに見かね、「代わりにしてやろう！一緒にやっ払いこう」と決めてくれる転機になりました。途中であきらめないけど、肩ひじ張らずに80%で長く続けるスタンスが、ピンチを変えてきたのです。

## 夢に向かって

開店時間が朝8時から夜7時なので、午前3時から夕方6時までがワーキングタイム。“全て自分がしなければ”から、夫のサポート以降は、他のスタッフに任せられるようになり、若いスタッフの飾り方から教えられることも。強さんは、「(雅代さんは)家のこともしながらなので大変だが、できる限り協力する」と言います。雅代さんが発信した「わたしだけのケーキ作りの夢」は、母、父、妹、そして夫と家族を動かし、家族の協力を得てやってこられました。

ケーキにも流行があるので、常に頭を柔らかくして吸収できるよう心がけ、東京や大阪である講習会には必ず出席し、若い世代の本も読んでセンスを磨いています。材料も、作るものによって国産・外国産を分けて仕入れ、地産地消にも目を向けています。

また、忙しさの中、ケーキ作りの楽しさを知ってもらいたいと、小学校・幼稚園・公民館への出前講座もこなす一方で、アレルギー体質や糖尿病の方にも、おいしく食べていただけるケーキを提供したいと研究に励んでいます。

こうした雅代さんの姿からは、絶えず現状に甘んじるのではなく、身近な興味・関心を糧に常に前向きな姿勢が熱く伝わってきます。そして、これからチャレンジしたいと考えている女性たちに、雅代さんは、何事にも途中であきらめず、立ち止まらずに長く夢に向かっていって欲しいとエールを送っています。

(平成20年1月取材)

## チャレンジの歩み

- 1980年 高校卒業後、就職した地元企業を1年で退職し、四日市市の調理師学校入学。ケーキ屋でアルバイトにも従事
- 1984年 卒業後菓子作りを目指し、製菓専門学校入学のため、1年間アルバイトで学費を貯める。
- 1985年 大阪の調理師学校製菓部門入学
- 1986年 卒業後、7月地元鈴鹿で「milk」開業
- 1992年 第一子の妊娠を契機に夫が店のサポートに入る。
- 1996年 milk 有限会社設立
- 2005年 現在地へ移転



私の財産は人脈  
人と人とのつながりを大切に



株式会社メガネの服部 店長

伊串 亮子さん

三重県津市

プロフィール

眼鏡店を経営する傍ら大門大通り商店街の活性化を目指して活躍しています。

津観音・だいたて街づくり実行委員会 メンバー

津市げんき大学 大学生

「夢にあんたが出てきた」!?

県外の大学に進学していた伊串さんは、大学時代は家業の眼鏡店を継ぐことは全く考えていませんでした。けれどもはじめてお店に出たときにお客さんと接する楽しさを知り、家業を継ぐ決意をします。

そうして三重県に戻り、眼鏡店の勉強を始めた伊串さんに転機が訪れます。

伊串さんが帰ってきた大門大通り商店街は、日本三観音の一つといわれる津観音の門前町であり、藤堂藩の城下町として三重県でも有数の繁華街として栄えてきました。しかし、時代の変化とともに人々の価値観や生活様式も変化し、郊外に大型店舗ができるなど、人の流れも変わっていきました。今の大門大通り商店街には、昔のような人の賑わいはありません。

そこで、「街に再び活気を！」と大門大通り商店街、たてまち商店街、観音さんの住職さんなど有志で「津観音・だいたて街づくり実行委員会」を作ることになりました。そのメンバーに伊串さんも誘われたのです。

誘い文句は「夢にあんたが出てきた」!! これがかっかけて、その後、大門の活性化を目指して活躍することになります。伊串さんにとって、津観音・だいたて街づくり実行委員会へ誘ってもらったことは、大門の街づくりに取り組んでいく「背中を押してもらった」瞬間となったのでした。

津市民として何か役に立ちたい!

こうして活動を始めた伊串さん。その後、津市げんき大学に入校するなど、

様々な活動に積極的に関わるようになり、津市民として何か役に立ちたいと思うようになりました。今では、ボランティア、学生、他地域、行政など多様な活動団体と大門大通り商店街を結ぶ架け橋として活躍しています。

## 「たくさんの人と出会い、いろいろなことが繋がって活動となる」

伊串さんの毎日は大忙しです。昼間は本業の眼鏡店でがんばりつつ、夜はいろんな活動に参加しています。津観音・だいたて街づくり実行委員会では、春にはおひな祭り、夏には夜店、秋には津祭り、冬には節分、その他たくさんの行事があります。また、月に1回「大門だより」を発行したり、お店のHPやブログを作成したりと、大門からの情報発信にも力を入れています。

今はマンションやアパートに住む人も多くなり、自分の住んでいる場所への愛着が少なくなってきたと伊串さんは感じています。そこで、皆さんに愛着を持ってもらえる街にしようと、毎朝11時に店の外に出てラジオ体操をして通りかかる近所の人に挨拶をするなど、人と人の繋がりを大切にしています。津に住んでいても津のことをあまり知らない人が多いと感じている伊串さんは、子どもたちに少しでも観音さんや商店街のことを知ってもらうため、小学校へ出前授業に行ったり、小学生に大門の行事に参加してもらうなど、大門のPRに努めています。

## 「私の財産は人脈」

「人と人との繋がりをとても大切に思っています。私の財産は人脈。この人とこの人を繋げたら何かができる、おもしろくなるという引き出しをたくさん持っていたと思います。仕掛け人になるためには自分自身も何かしなければいけないと思います。」という伊串さんの言葉には、今の伊串さんの生きる姿勢と夢に向かって進む力強さを感じます。将来の目標は、お店を出したいと思う若い人が「大門でお店を出したい!」と思ってもらえるような街にすること。今は、商店街を動かしていくという大きなことはできないので、今、自分の立場で、今あるものを活かして、自分にできることをやり続けていくことが大切だと語る伊串さんの瞳は、一心に未来を見つめています。

(平成20年1月取材)



# ちいちゃんのお弁当屋さん 村のかたすみ



プロフィール  
弁当 きいちゃ 経営

弁当 きいちゃ  
**中井 敦子**さん

三重県多気郡明和町

## 料理上手な主婦が青年の行動に影響されて

27年間勤めた百貨店を退職してからは、母親の介護をしながら飲食店や衛生関係の職場でアルバイトをしてこられた中井さんでしたが、27歳になる甥が都会で店舗を借りて美容室を開業するという、そんな青年の挑戦をきっかけに自分でも何か始めてみようという気持ちになりました。

お弁当屋さんに決めた一番の理由は、料理を作るのが好きということで、これまでも親類が遊びに来られたときなどは、大根や芋を炊いたものでもてなすと、大変美味しそうに食べてもらえるので、家族で、お好み焼き屋さんを始めようかなど冗談交じりに話をされることがあったそうです。また、近所では一人暮らしの家庭が増え、買い物にも行けないような状況があったので、「そんな方々に私の料理で少しでも手助けできたらという気持ちで始めました。」とおっしゃられていました。

## 家族の協力が後押し

こうした気持ちを家族に伝えると、いつもは反対される家族からも、今回は「ええことや」と父親も賛成し、鉄工所をしている夫もバラックだった建物を鉄骨できれいに作業場として整備してくれるなどわずか3ヶ月で始めることができました。また、野菜は父親が畑で栽培したものを中心に使われていますが、特にこの辺りは砂地でさつまいもが美味しいので、天ぷらにして出すと、お客さんからは「おばちゃん、いもの天ぷら美味しかった。」と喜んでくださるの

で、それがすごく嬉しくてやりがいも感じていらっしゃいます。

## 仕事、家族との生活そしてエンジョイ

お弁当屋さんの仕事は、朝8時半から途中1時間くらいの休憩をはさんで夜7時頃まで、毎日40食の調理・盛りつけ・配達・翌日の買い出し・準備の一連の作業をほぼ1人でこなされています。お弁当の具材にも気を配り、若い方に人気のあるエビフライや唐揚げなどの油ものばかりにせず、野菜をふんだんに使うなど5品目のものを入れていきますので、材料費もかかることから、たくさんの利益をあげるのは難しいようです。このように、毎日忙しく仕事をされている中井さんですが、毎週水曜日は定休日にし、それ以外にも福祉施設に入所している母親が帰宅する日や、お子さんの学校の用事などで出かけなければならない日も休みにし、家族を犠牲にしないよう無理なく仕事をされています。また、月2回は、映画を観たり買い物をしたり友達の所へ遊びに行ったりされて、仕事と休みとのメリハリがつけられるよう、自分のことに使える時間を作るように努力されていることも伺いました。

## これからは

今後の希望・展望としては、「今のお客さんを大事にしていきたいし、自分の志としては、年配の一人で暮らしている方の手助けができればいいという気持ちがあるので、そういうお客さんが増えるようお年寄りのことを中心に考えて料理していきたいと思っています。」とおっしゃっていました。

## サポーターからの独り言

年配の一人暮らしの方の手助けができればと、お年寄りのことを中心に考えて料理していきたいという中井さん。

中井さんは、5年間、母親の介護をされ、今も施設で療養中の母親を月2回自宅で介護していることなどから、お年寄りへの優しい気配りが、きっとお弁当に生かされていることでしょう。

お弁当屋さんを始めてまだ1年、中井さんの優しい気持ちのあたたかいお弁当がたくさんのお年寄りに喜ばれるようになることでしょう。

(平成20年1月取材)



人との出逢いが、  
次のステップにつながります。



志島子どもクラブ 代表  
**向井 貴子**さん

三重県志摩市

プロフィール

四日市市出身の元小学校教員  
結婚を機に志摩郡阿児町（現志摩市）へ。  
2000年1月、子どもの居場所づくりを目指し「いちごの会」の設立に参画。  
2006年春には、放課後児童クラブ「志島子どもクラブ」を立ち上げ、代表に就任。  
「子育て支援」を念頭に、様々な企画を行うなど活躍されている。

同じ悩みを抱えた仲間との出逢い

当時、小学校の先生をしていた向井さんは、学校の長期休暇の際など地元で子どもを預かってくれる場所がなく、非常に困ったそうです。

自分の子どもは四日市の両親の家に預かってもらっていたそうですが、他にも子どもの居場所を探している母親たちと出逢ったことがきっかけで、仲間たちと「いちごの会」を発足させました。

この会で、お互いの子どもの面倒を見あいながら、神社の祭りや敬老会に子どもたちと参加したり、資源回収をして資金を集めたり…。様々な活動を続けるうち、そこに行けば誰かがいて、宿題をしたり遊んだりできる子どもの居場所が必要だということから、「志島子どもクラブ」を設立しました。ここでは「子育て支援」のみでなく、子どもたちが異年齢間で遊ぶことでお互いが育ちあっていく「子育て支援」ということも考えて日々活動してみえます。

子どもにさまざまな経験と自信と挫折を！

志島地区は子どもの数が少なく、それゆえの悩みもあります。

触れ合う子どもの数が絶対的に少ないため、成長してからの人間関係などで、些細なことで落ち込んだり苦しんだりすることがあるとのこと。そのため向井さんは、子どもたちを様々な場所へ積極的に連れ出しているんな経験をさせたり、時には小さな挫折を味あわせたりしているそうです。

大人がたくさん関わってくれる中で、子どもが自分の知らなかった世界を知

設立

2006年春

サポーター：8名程度  
（うち男性2名）

◎主な事業（活動）内容

- ・放課後の居場所づくり
- ・野外活動

志摩市阿児町志島



ったり、褒めてもらったことで自信を深めていってほしいというのが、向井さんの願いです。

## 夫唱婦随…婦唱夫随…

活動を応援してくれる方は多いですが、やはり「子どもは放っておいても育つ」とか「よその子を預かって、もし何かあったら…」など、地域の方からマイナス意見を聞くこともあります。そんな時のよき相談相手、話相手がご主人だそうです。

また行政への要望で女性の声が届きにくい場合には、強力なサポーターであるご主人から発言してもらったこともあったとか。

ご主人とは、お互いの仕事や活動について話し合ったり協力しあったりということが自然にできる、とてもいい関係を築いていらっしゃるようです。また最近、大学生の娘さんがサポーターとして参加されることもあるとのこと。

お話を伺っていると、ご夫婦が対等で尊重しあい、その姿がお子さんたちにも反映されている素敵なお家庭だということがよくわかりました。

## いつもアンテナを高く張って

次にこんなことをしたいなあ、などと漠然と考えていると、本当にいいタイミングで人を紹介してもらったり、話をいただいたりするそうです。そこから次々と人の輪が広がり、アイデアが出てきて、実現に向けて進んでゆく…。それはきっと、向井さんがいつも自分のアンテナを高く張って動いていらっしゃるからなんだろうと思いました。

「一歩でも半歩でも前に出てみたら、そこから次のステップに続いていくような気がします。まずは、今いるところから一歩踏み出してみよう。きっと、何か新しい出逢いがあり、その出逢いを大切にしていると新しい世界が広がっていくと、私は信じています。」と、向井さん。

いろんなことに好奇心をもって日々活躍していらっしゃる向井さんのお話から、たくさんの刺激をいただきました。

(平成20年1月取材)

## チャレンジの歩み

- 2000年1月 「いちごの会」発足
  - 2005年 秋 子どもの放課後の居場所づくりのため準備開始
  - 2006年 春 「志島こどもクラブ」発足
- 地域の子どもたちの過ごし場として様々な行事を企画している



わかりやすい政治にしたい  
女性の目線で



伊賀市議会議員

**安本 美栄子**さん

三重県伊賀市

プロフィール

1947年三重県伊賀市諏訪生まれ  
24年間医療機関での勤務の後、平成  
7年「やさしさと潤いの政治」をモ  
ットーに市議会議員に初当選、以後  
4期目の議員活動中。  
その間、常任委員長、副議長、議長  
を歴任、特に議長時には、全国市議  
会初の基本条例を制定し、議会改革  
に取り組み、現在、全国各地で講演  
を行い、分権時代の地方議会の活性  
化に取り組んでいる。

男社会と言われてきた地方議会に女性の視点を生かし、議会の改革に取り組み、全国市議会初の議会基本条例の制定を果たした伊賀市議会前議長の安本美栄子さんを訪ねました。

感謝されることのありがたさ

安本さんは、伊賀市議会議員に立候補するまで、伊賀市内の医療機関で24年間事務職として勤務していました。「病院の外で人の役に立つことは何だろう？」と考えるようになり、その末に思いついたのが、当時の上野市に住む人たちに「この地で住んでいて本当に良かった」と言ってもらえるような地域づくりをしたい、ということだったのだそうです。これが安本さんの市議会議員に立候補する直接のきっかけでした。

「おかしい」と思うことの大切さ

初当選の年に、「議会だより」の編集委員に指名された安本さんは、会派の行政視察の写真を掲載することを提案しますが、それを先輩議員から叱られてしまいました。この出来事を機に、当時の議会のあり方に「なぜ？」という疑問を抱いた安本さんは、「市民に対して、よく見える、ガラス張りの議会制度への改革」を自分の政治目標として掲げるようになったのだそうです。

勇気と決断

改革に着手するにあたり、現実問題として安本さんが考えた方法は「仲間と権限」です。改革するには、議会内で権限のあるポジションが必要だ。それなら議長になろう。そして任期内の一年間で改革をやろう。そう決意した安本さんは「3つの公約」を掲げて議長選に挑みます。

- ①議会基本条例の制定
- ②議員の定数削減
- ③政務調査費の使途明確化

安本さんの掲げた公約はとてもシンプルでハッキリとしていて、安本さんの性格そのものようでした。

## 市民の声が応援団

平成17年4月、議長に就任した安本さんは、一年間の任期の中、公約の実行を余儀なくされます。議会の改革ということは、自分たちの組織を自分たちで変えていくことなので、なかなか容易なことではなく、時として抵抗勢力に阻まれます。そしてそれは孤独との戦いでもあります。ライバル視もある中で、彼女は改革のリーダーとして奔走します。まず手始めに議長の私的諮問機関としての「議会のあり方検討委員会」を設置しました。88団体500名余りの市民の皆さんとの意見交換会を実施。席上では「伊賀市議会、今のまま良いですか？それともダメですか？どんな議会を望みますか？」と全く白紙の状態から、市民の皆さんに係わっていただきながら、まさに、協働による条例づくりに取り組みました。この作業に、昼夜東奔西走してくれた「議会のあり方検討委員会」の熱意と努力に安本さんはとても感謝しているそうです。

## 覚悟が必要な時

このようにして市民と共に作り上げた「議会基本条例案」の答申を受け、安本さんは12月議会に提出しようとするのですが、議論不足、時期尚早との反対にあり、この段階での上程は困難と判断、次期、3月議会への提出を決意します。安本さんにとって大勝負の議会開会日である2月28日、もしかして不成立の場合の責任をも覚悟して、「議長職の辞表」を手に議長席についたそうです。条例案は賛成22名、反対11名で「議会基本条例」は見事成立となりました。こうして議会改革の第一歩がすすめられました。今では、全国市議会初の「議会基本条例」に1000名の視察が伊賀市を訪れているそうです。

## 女性の感性を政治に生かそう

まだまだ男社会と言われている地方議会に、女性の視点と感性で変革が叶えられる。今、一仕事終えた安本さんは、その思いを熱く語ってくださいました。「女性議長」あとに続いてほしい!もっと多くの女性に市議会議員に立候補してほしい!

まだまだ、やりたいことがいっぱいある。私たち女性の目線で政治をわかりやすいものに変えていきたい。もっと大勢の女性が積極的に入っていきやすい政治や選挙制度を目指したいです。そして安本さんは、こう付け加えました。「議会に入って感じたことは、議員としての資質や姿勢は性別ではなく、市民や行政に対して“議員としての責任”を果たすこと。女性もしっかりと自分の意見を持つ、自分なりの責任の取り方・取れる覚悟を持つ、そういう姿勢がなければ、女性はいつまでたっても脇役に甘んじていなければ駄目だということです。」

安本さんの熱い思いがこちらにまで伝わってくるのを感じました。

(平成20年1月取材)



「ワイワイ」で生きるまちをつくりたい  
みんなが健康で明るく



「手作り工房ワイワイ」代表

**井谷 三枝子**さん

三重県北牟婁郡紀北町

#### プロフィール

約13年間、病院でヘルパーとして従事し、現在はグループホーム（認知症対応型介護支援事業所）で週2回の夜勤のみ、ヘルパーとして勤務。H18年7月に手作り工房・ワイワイの会を設立し、活動を展開。

#### 【手作り工房ワイワイ】

場所：紀北町紀伊長島区長島新町  
Tel：05974-7-2236

### 仲間作り、そして活動内容

手作り工房ワイワイは主に古布等を使い、手芸品を作成して、それを店舗で販売しています。その他にも、チャリティーバザーや体験教室、研修旅行を行い、また、町のイベントなどに積極的に参加し、中高年の方の社会参加の場、貢献の場を提供しています。

### チャレンジのきっかけ

井谷さんはこのワイワイを立ち上げた理由をこう語ってくれました。「姑の『私の人生何やったんやろ・・・』という一言に胸を打たれ、約13年間の介護を通して、老人との関わりを大切に、核家族の寂しい環境にある人達と何かの形で楽しく交流できないものかと考え、そして、自分自身も納得のいく人生を送りたいと願い、このワイワイを立ち上げた。」みんなが健康で元気に暮らせる町にしたいとおっしゃいます。

### チャレンジの実現に向けて

井谷さんはワイワイを立ち上げる以前から町の各公民館講座に積極的に参加していました。そこで、知り合った講師の先生や代表の方々にワイワイ立ち上げの協力を仰ぐことにしました。しかし、紀北町にはワイワイのような活動を行う団体が無く、初めての試みだったため、理解や協力を得ることが難

しかつたとおっしゃいます。それでも、諦めずくる日もくる日もシャッターの降りた商店に店舗利用の交渉や応援して下さる方への具体的な活動協力をお願い、時には冷たい言葉や視線を向けられることもありました。それでも、持ち前の明るさで諦めず、“念ずれば花開く”ことを信じ、乗り越えて来ました。その結果、現在は会員数が90名となり、お互い良い意見を出し合ったり、知恵を振り絞ったりできる仲間がたくさんできました。

## 自然の中での物、心づくりを!

一番大切に考えていることは製作のプロセスを楽しむこと。そして、仲間やお客様との心の交流だとおっしゃいます。人の輪の中で、いろいろ考えたり、物づくりをしているうちに、自然に心づくりもできるものです。これからも、中高年の方の社会参加、貢献の場を提供していきます。そして、共に老いや痴呆症を寄せ付けない、健康生活を得て、明るく楽しい住みよいまちづくりを続けていきたいと語ります。

(平成20年1月取材)



# 地域に愛される 憩いの場所を目指して



(株)いーすとカンパニー  
尾鷲自動車学校 代表取締役

**東 稔子**さん

三重県尾鷲市

## プロフィール

尾鷲自動車学校  
[代表取締役] 東 稔子  
設立：S39年7月13日  
社員：20名  
〒519-3637  
三重県尾鷲市光ヶ丘12番18号  
TEL：0597-22-0485

尾鷲の街を車で走っていると、ちょっと派手目の車を見かけます。それは尾鷲自動車学校の教習車。東さんが平成19年4月に就任してから、教習車も新しく代わり、明るいイメージの自動車学校づくりを実施しています。

## チャレンジのきっかけ

3年前、東さんは事業を継ぐかどうか迷っていました。そこで、間近で自動車学校を見つめてみようとして、生徒として大型免許の取得に通いました。そのことで、自動車学校の改善点と可能性を見つけることができ、後を継ぐことを決心されました。

## 尾鷲自動車学校の変化

尾鷲自動車学校は東さんが代表取締役になってから大きく変わりました。今までは職員が生徒に挨拶をしたり、コミュニケーションをとる場面が少なかったようです。しかし、現在は職員から挨拶をするようになり、授業を楽しく分かりやすくするために話術の勉強をした結果、生徒との関わりが多くなったと言います。学校のモットーは安全と事故のない教習。車の運転は命に関わるので、教習中は厳しく指導しています。設備面もシミュレーションの機械を新しくしました。生徒が待ち時間も楽しく過ごせるように待合室にテレビや自動販売機などを置いたり、運転の楽しさや怖さを知ってもらうためのゲームコーナーを設けています。また、小さい子どもがいる人でもゆっくり授業が受けられ

るように託児室も作りました。

## 夢に向かって

東さんは職員や生徒と積極的にコミュニケーションをとり、明るい自動車学校を作ることに努めてきました。

とにかく『仕事楽しい』と東さん。「社員はよく働いてくれて、私は本当に人材に恵まれている。」「人に支えられて今の自分がある。」常に、「ありがとうの気持ちを忘れない」と語ってくれました。それから、生徒さんに『どのような学校が良いか。』『どういう風に学校を使いたいか。』その意見を参考にみんなが来たいという学校にしたいと言います。

東さんは尾鷲自動車学校から地域を発展させたいとおっしゃいます。卒業した人でも、免許を取得することが目的でない人も尾鷲自動車学校に遊びに来てほしい。老若男女誰でも利用できる憩いの場所を目指しています。

(平成20年1月取材)



どうしてこの方たちは  
こんなに元気なのか？



「ときめきれすとらん」経営

**徳本 末子**さん

三重県熊野市

NPO法人まちづくりセンター『Theくまの』元理事長

「白帆や」(雑貨店) 経営

**中村 伸子**さん

三重県熊野市

## 取り組みのきっかけ

お二人を訪問した、中村さん経営の「白帆や」には、かわいい小物とともに古い着物が生まれ変わった「つるし飾り」や「ミニ着物」が所狭しと飾られていました。これは、今、お二人が取り組んでいる「くまのときめきフェスティバルー縁側サミット」の作品たちです。

お二人がともに活動する仲間の名前は『ときめき倶楽部』。NPO法人まちづくりセンター『Theくまの』の女性部として、商店経営、みかん農家、たかな生産者、グリーンアドバイザー、料理研究家など異業種の意欲的な女性が集まって活動しているグループです。

中村さんがNPO法人の中に女性部を作りたいと思われたきっかけは、まちづくりセンター『Theくまの』の仲間とでかけた早稲田大学OBで作る「稲門会」との交流、そこで女性部の藤井さんと出逢われた事でした。藤井さんは、精進料理や薩摩琵琶を演奏される方で、中村さんは多くのことについて藤井さんから影響を受けました。

中村さんの声かけで誘われた仲間が現在のメンバー。おもしろそうだなあと関わり始めてからもう10年たったそうです。

## 楽しくおしゃべり

現在の活動の中心は年1～2回の「くまのときめきフェスティバル」の開催です。

チマチョゴリを着て韓国料理に舌鼓を打ち記念撮影した第1回目から昨年、第5回を開催しました。「芭蕉さんが行く」にちなんだ南部美智代さんの布人形を展示したのをきっかけに南部さんとの交流が深まり、活動は「縁側サミット」へと移行しています。月1回、20名前後の人たちが集まり、南部さんに教わりながら古い着物を再生させるミニ着物や布人形、小物作りの手仕事をしな



がらワイワイ楽しくおしゃべりするのが「縁側サミット」です。いろいろな人との出会いが最高の魅力です。そして、そこで出来上がった作品たちを熊野市内の商店街に飾り、多くの人たちに見てもらい、商店街に昔の賑わいを取り戻したいとフェスティバルに取り組んでいるのです。

でも、初めはまちづくりセンター『Theくまの』の仲間内でも女性部の活動はそれほど重要視されていませんでした。しかもフェスティバルを継続していく収益活動も自分たちでしていかなければなりません。フェスティバルのポスターは、中村さんの手書きを何とかコピーしてもらい、皆で彩色してお店などに貼らせてもらいます。また、地元紙や「くまどこ」ZTVに協力してもらいPRしています。

お二人はそれぞれご自分のお仕事でも個性を大いに発揮しています。

中村さんは30年前、ひまつぶし！に自分の好きな服、小物、雑貨のお店を国道42号線沿いに開店しました。「自分の好きなものを好きな人が買ってくれたらいいわ」という甘い考えで始めてみたものの、苦勞の連続でした。でも、好きなことをすることと、生来の前向きな性格で新しい世界をどんどん広げていきました。

## 自分が食べたいもの

徳本さんは韓国料理が大好き。といっても「家庭のおもてなし料理」がモットーです。自分が食べたいと思っている料理を出してくれるお店が熊野になく、じゃあ自分でそんなお店を作ろうと6年前に『ときめきれすとらん』を始めました。徳本さんのこだわりの料理店「ときめきれすとらん」は「ときめき倶楽部」にちなんで名づけられました。ご自宅をそのままお店として趣向をこらして使っているので、10～12名が入れる小さなお店ですが、料理がのる器やお店全体の雰囲気から徳本さんの心遣いが感じられます。食材は地元の旬のものをできるだけ使い、ヘルシーでしかも見た目にも美しく！を心がけているそうです。

「こうしなければというこだわりを取っ払い、頑張らず、楽しくやるのがいいんですよ」そんな言葉から、熊野の気候風土を思わせる、ゆったりとした柔軟で明るい女性の強さ、やさしさを感じさせます。

## 元気のもと

「自分の好きなこと、特技を活かして、自分が楽しいことにチャレンジするのが良い。頭と身体を動かしていると、自然に元気がわいてくるものです。」  
「生きている張りみみたいなものを年齢を重ねてもずっと持ち続けていきたいですね。」という中村さんは現在、親の介護をされているそうですが、疲れきって落ち込んだりせず元気なのはこうした「心意気」があるからなのでしょう。

徳本さんの座右の銘『一生懸命』

中村さんの座右の銘『継続は力』

(平成20年1月取材)





## 三重県チャレンジサポーター

「起業」「キャリアアップ」「まちづくり・地域づくり」「NPO・ボランティア」などの分野で活躍している女性たちの事例を、平成19年度に配置しました女性のチャレンジ支援等を地域で推進する「チャレンジサポーター」が取材し、事例集としてまとめました。

「チャレンジサポーター」の皆さんは次のとおりです。

### 三重県チャレンジサポーター（平成20年2月23日現在）

地 域	市 町 名	サポーター名	地 域	市 町 名	サポーター名
桑名 県民センター	桑名市	高橋 淑子	松阪 県民センター	松阪市	小坂 滋子
	東員町	淵野 安子		多気町	奥 久子
	東員町	山崎 まゆみ		明和町	北山 政恵
四日市 県民センター	四日市市	石田 寿賀子	松阪 県民センター	明和町	山川 孝
	四日市市	小橋 和子		大台町	稲垣 元美
	四日市市	藤田 幸子	伊勢 県民センター	伊勢市	大田 真寿美
	菰野町	中村 ひと		伊勢市	山本 はるみ
	朝日町	野呂 幸子		鳥羽市	上村 美穂
	朝日町	山本 淑子		志摩市	石野 好乃
	川越町	寺本 詩野		志摩市	上村 知香
	川越町	寺本 由美		度会町	小坂 里香
鈴鹿 県民センター	鈴鹿市	寺井 和子	伊賀 県民センター	伊賀市	松尾 紀子
	鈴鹿市	豊田 栄美子		名張市	植野 あさ子
	鈴鹿市	永戸 千草		名張市	数本 有喜子
	亀山市	柏木 康恵	尾鷲 県民センター	尾鷲市	藤村 展子
	亀山市	宮村 照子		尾鷲市	森川 さゆり
津 県民センター	津市	小林 小代子	尾鷲 県民センター	尾鷲市	森本 美深
	津市	山岡 勝江		紀北町	松生 茂子
	津市	藤本 由佳		熊野市	田岡 陽子
			熊野 県民センター	熊野市	脇濱 厚子
				紀宝町	上地 弘美

総員：40名



# 資料編

---





## 三重県内の主なチャレンジ支援機関

全国には、女性のチャレンジを支援している数多くの機関があります。  
ここでは、三重県内でチャレンジを支援している主な機関を紹介します。

	機 関 名	ペ ー ジ
1	みえチャレンジプラザ	29
2	三重県商工会議所連合会（商工会議所）	30
3	三重県商工会連合会（商工会）	31
4	三重県中小企業団体中央会	31
5	三重県経営者協会（三重県地域労使就職支援機構）	32
6	財団法人 21世紀職業財団三重事務所	32
7	日本労働組合総連合会三重県連合会	33
8	独立行政法人 雇用・能力開発機構三重センター	33
9	社団法人 三重県専修学校協会	34
10	三重労働局 職業安定課（ハローワーク マザーズサロンみえ）	34
11	三重労働局 雇用均等室	34
12	三重県農業協同組合中央会	35
13	三重県漁業協同組合連合会	35
14	財団法人 三重県農林水産支援センター	36
15	三重県公民館連絡協議会	37
16	三重県PTA連合会	37
17	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会	38
18	財団法人 三重県母子寡婦福祉連合会（三重県母子家庭等就業自立支援センター）	38

※ 「どこに相談したらいいかわからない」、「初めての相談で不安を感じる」といった場合は、  
まず「みえチャレンジプラザ」（TEL 059-356-0239）にご相談ください。



## みえチャレンジプラザ

名 称	みえチャレンジプラザ
所在地	〒510-0067 三重県四日市市浜田町4-20 JA三重四日市ビル6階
	<b>交通アクセス</b> 近鉄四日市駅下車 徒歩5分
TEL/FAX	T E L : 059 (356) 0239 F A X : 059 (356) 3955
ホームページURL	<a href="http://www.oshigoto.pref.mie.jp/connect/challpla.html">http://www.oshigoto.pref.mie.jp/connect/challpla.html</a>
E-mailアドレス	challpla@pref.mie.jp
開館時間	月曜日～金曜日 午前 8時30分 ～ 午後 7時00分 土曜日 午前10時00分 ～ 午後 5時00分  休館日： 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
業務概要 設置目的	<p>意欲のある女性等が、就業をはじめとした社会参画をできるようにするために三重県が設置し、チャレンジに関する情報提供やチャレンジ相談員（キャリアカウンセラー）によるアドバイスなど、相談者の状況に応じて必要な支援を提供しています。</p> <p>設置しているパソコンを使って、チャレンジに関するインターネット情報検索や、エクセル・ワードの自己学習、適職診断をすることができます。</p> <p>「みえチャレンジプラザ」では、お子様連れでも安心してご利用いただけるように、相談コーナーから見える位置に「キッズ・託児コーナー」を設置しているほか、授乳やオムツ交換ができる「ベビールーム」もあります。また、毎週月、水、金曜日は、相談中の託児サービスを受けることもできます。</p>





**三重県商工会議所連合会（商工会議所）**

<b>名 称</b>	三重県商工会議所連合会（商工会議所）
<b>所在地</b>	〒514-0004 三重県津市栄町1-891 三重県合同ビル6階
	<b>交通アクセス</b> 近鉄・JR津駅下車 徒歩10分
<b>TEL/FAX</b>	T E L : 059 (227) 1666      F A X : 059 (223) 1877
<b>ホームページURL</b>	<a href="http://miepfcci.pro.tok2.com/">http://miepfcci.pro.tok2.com/</a>
<b>E-mailアドレス</b>	miepfcci@quartz.ocn.ne.jp
<b>業務概要 設置目的</b>	<p>三重県商工会議所連合会は、三重県内の12商工会議所（「商工会議所法」に基づく特別認可法人）の連合体として設立。</p> <p>商工会議所は、地域の商工業者の世論を代表し、商工業の振興に力を注いで、国民経済の健全な発展に寄与するための公的性格を持つ地域総合経済団体で、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域性－地域を基盤としている</li> <li>②総合性－会員はあらゆる業種・業態の商工業者から構成されている</li> <li>③公共性－公益法人として組織や活動などの面で強い公共性をもっている</li> <li>④国際性－世界各国に商工会議所が組織されている</li> </ul> <p>という4つの大きな特徴をもっています。</p> <p>三重県商工会議所連合会は、地域総合経済団体として、各地の商工会議所が「その地区内における商工業の総合的な発展を図り、兼ねて社会一般の福祉増進に資する」という目的を円滑に遂行できるよう県内12商工会議所を総合調整し、その意見を代表している団体で、事業活動も建議要望・中小企業振興・地域振興・情報化推進・国際交流等多岐にわたっています。</p>





## 三重県商工会連合会（商工会）

名 称	三重県商工会連合会（商工会）
所在地	〒514-0004 三重県津市栄町1-891 三重県合同ビル6階
	<b>交通アクセス</b> 近鉄・JR津駅下車 徒歩10分
TEL/FAX	T E L : 059 (225) 3161 F A X : 059 (225) 2349
ホームページURL	<a href="http://www.mie-shokokai.or.jp/">http://www.mie-shokokai.or.jp/</a>
E-mailアドレス	kenren@mie-shokokai.or.jp
業務概要 設置目的	<p>商工会は、「商工会法」に基づき設立された特別認可法人です。</p> <p>商工会は、地区内の商工業の総合的改善発達を図るとともに、社会一般の福祉の増進に資することを目的として公共性に富んだ事業活動を行っています。また、小規模事業者の相談・指導を行っています。</p>



## 三重県中小企業団体中央会

名 称	三重県中小企業団体中央会
所在地	〒514-0004 三重県津市栄町1-891 三重県合同ビル内
	<b>交通アクセス</b> 近鉄・JR津駅下車 徒歩10分
TEL/FAX	T E L : 059 (228) 5195 F A X : 059 (228) 5197
ホームページURL	<a href="http://cniss.chuokai-mie.or.jp/">http://cniss.chuokai-mie.or.jp/</a>
E-mailアドレス	webmaster@chuokai-mie.or.jp
業務概要 設置目的	<p>組合をはじめ、任意グループ、共同出資会社、社団・財団法人等の中小企業連携組織を通じて、はばひろく中小企業の経営をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業連携組織等の指導・支援、人材育成</li> <li>・中小企業連携組織等に関する調査研究</li> <li>・中小企業連携組織等への情報提供 など</li> </ul>





**三重県経営者協会（三重県地域労使就職支援機構）**

<b>名称</b>	三重県経営者協会（三重県地域労使就職支援機構）
<b>所在地</b>	〒514-0036 三重県津市丸之内養正町4-1 森永三重ビル4階
	<b>交通アクセス</b> 近鉄津新町駅下車 徒歩15分、津お城西公園北側 三重交通バス三重会館前下車 西へ徒歩7分
<b>TEL/FAX</b>	T E L : 059 (213) 4443 F A X : 059 (213) 4443
<b>ホームページURL</b>	<a href="http://www.mie-shienkiko.jp/">http://www.mie-shienkiko.jp/</a>
<b>E-mailアドレス</b>	miesienkiko@peach.ocn.ne.jp
<b>業務概要 設置目的</b>	<p>厳しい雇用環境が続く中で、厚生労働省の委託事業として、三重県内の経営者団体、労働組合団体が相協力して、連携をとることで、仕事を求める方々が、早期に再就職できるよう支援することを目的として設立。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労使協力による取組で地域の雇用情勢改善を促進</li> <li>・労使連携による求人確保、早期再就職支援活動</li> <li>・雇用支援制度導入奨励金普及啓発事業</li> <li>・求職と求人とのミスマッチ解消に向けた各種講座開講</li> <li>・地域雇用セミナー等を開催による雇用にかかる課題の改善</li> <li>・学生・生徒に対する職業意識の醸成、就業意識定着に向けた事業</li> </ul>



**財団法人 21世紀職業財団三重事務所**

<b>名称</b>	財団法人 21世紀職業財団三重事務所
<b>所在地</b>	〒514-0004 三重県津市栄町2-380 HOWAビル津4階
	<b>交通アクセス</b> 近鉄・JR津駅下車 徒歩7分
<b>TEL/FAX</b>	T E L : 059 (228) 2300 F A X : 059 (228) 2304
<b>ホームページURL</b>	<a href="http://www.jiwe.or.jp/">http://www.jiwe.or.jp/</a>
<b>E-mailアドレス</b>	Fvbn8190@nifty.com
<b>開館時間</b>	月曜日～金曜日 午前 8時30分 ～ 午後 5時00分 休館日： 土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
<b>業務概要 設置目的</b>	<p>女性労働者、子の養育または家族の介護を行う労働者及び短時間労働者の能力の発揮のための雇用管理改善、女性労働者等の職業生活と家庭生活との両立のための支援等の諸事業を行うことにより、企業における良好な雇用関係の確立及び女性労働者等の能力の有効発揮をはかるとともに、経済社会の発展に寄与することを目的として設立。</p>





## 日本労働組合総連合会三重県連合会

名 称	日本労働組合総連合会三重県連合会
所在地	〒514-0004 三重県津市栄町1-891 三重県勤労者福祉会館内
	<b>交通アクセス</b> 近鉄・JR津駅下車 徒歩10分
TEL/FAX	T E L : 059 (224) 6152      F A X : 059 (223) 3633
ホームページURL	<a href="http://www.jtuc-rengo.jp/mie/index.html">http://www.jtuc-rengo.jp/mie/index.html</a>
E-mailアドレス	<a href="http://www.jtuc-rengo.jp/mie/mail.html">http://www.jtuc-rengo.jp/mie/mail.html</a>
業務概要 設置目的	<p>三重県内の労働組合が集まって作っている組織で、組合員は約13万人、構成組織は39組織です。単組支部数は約600。</p> <p>11の地域協議会（地協）があり、連合運動は中央・地方・地域が一体となって運動を進めています。</p> <p>「ゆとり・豊かさ・社会的公正」をめざした政策づくりや、働く者の雇用や権利を守るために活動を進めています。また、産業・業種・地域をこえた連帯を強化し、連合本部と一体的運動を進めるとともに、当該地方の課題についても積極的に取り組んでいます。</p>



## 独立行政法人 雇用・能力開発機構三重センター

名 称	独立行政法人 雇用・能力開発機構三重センター
所在地	〒510-0943 三重県四日市市西日野町4691
	<b>交通アクセス</b> 近鉄八王子線西日野駅下車 徒歩10分
TEL/FAX	T E L : 059 (321) 3171      F A X : 059 (322) 2890
ホームページURL	<a href="http://www.ehdo.go.jp/mie/index.html">http://www.ehdo.go.jp/mie/index.html</a>
開館時間	月曜日～金曜日    午前 8時45分 ～ 午後 5時00分
	休館日： 土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
業務概要 設置目的	<p>産業構造の転換や雇用失業情勢の変化に対応した雇用対策を機動的・効果的に実施する機関として設置。</p> <p>雇用機会の創出や魅力のある職場づくりを支援するための「雇用開発」並びに、勤労者や求職者の方々の職業能力開発及び向上を図るための「能力開発」に関する総合的なサービスを行なっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在職者を対象とした能力開発セミナー</li> <li>・求職者を対象とした職業能力開発（職業訓練） など</li> </ul>



**社団法人 三重県専修学校協会**

<b>名称</b>	社団法人 三重県専修学校協会
<b>所在地</b>	〒514-0008 三重県津市上浜町1-293-4
<b>TEL/FAX</b>	T E L : 059 (229) 4070      F A X : 059 (229) 4069
<b>ホームページURL</b>	<a href="http://www.inetmie.or.jp/~miesk/">http://www.inetmie.or.jp/~miesk/</a>
<b>業務概要 設置目的</b>	「三重県専修学校ガイド」により、三重県内の専修学校を分野別、地域別で紹介している。



**三重労働局 職業安定課 (ハローワーク マザーズサロンみえ)**

<b>名称</b>	三重労働局 職業安定課 (ハローワーク マザーズサロンみえ)
<b>所在地</b>	〒514-8524 三重県津市島崎町327-2 津第二地方合同庁舎内
<b>TEL/FAX</b>	T E L : 059 (226) 2305      F A X : 059 (227) 4331
<b>ホームページURL</b>	<a href="http://www.mie.plb.go.jp/">http://www.mie.plb.go.jp/</a>
<b>業務概要 設置目的</b>	県内各地のハローワークで、求職者に対する職業紹介や雇用保険の適用・給付・雇用助成サービス等を行っている。 また、ハローワーク四日市には、子育て期の女性の就職等を支援する「マザーズサロンみえ」が設置されている。



**三重労働局 雇用均等室**

<b>名称</b>	三重労働局 雇用均等室
<b>所在地</b>	〒514-8524 三重県津市島崎町327-2 津第二地方合同庁舎内
<b>TEL/FAX</b>	T E L : 059 (226) 2318      F A X : 059 (228) 2304
<b>ホームページURL</b>	<a href="http://www.mie.plb.go.jp/">http://www.mie.plb.go.jp/</a>
<b>業務概要 設置目的</b>	職場における男女の雇用機会均等の確保やセクシュアルハラスメント、職業生活と家庭生活の両立、パートタイム労働者の雇用管理改善等の問題について相談に応じている。



## 三重県農業協同組合中央会

名 称	三重県農業協同組合中央会
所在地	〒514-0004 三重県津市栄町1丁目960
	<b>交通アクセス</b> 近鉄・JR津駅下車 徒歩8分
TEL/FAX	T E L : 059 (229) 9006      F A X : 059 (228) 2852
ホームページURL	<a href="http://www.jamie.or.jp/miechuokai/">http://www.jamie.or.jp/miechuokai/</a>
E-mailアドレス	chiiki@jamiechuokai.jp
業務概要 設置目的	<p>単位JA及び連合会の健全な発達を図ることを目的に設立した指導機関で、県内15総合JA、1専門JA及び5連合会（信連、厚生連、全農三重県本部、全共連三重県本部、酪連）を正会員とし、正会員からの賦課金等で指導事業、広報事業などの事業活動を行っている。</p> <p>JAでは、組合員や地域の生活・文化の向上に向けた各種事業を実施。</p>



## 三重県漁業協同組合連合会

名 称	三重県漁業協同組合連合会
所在地	〒514-0006 三重県津市広明町323-1
TEL/FAX	T E L : 059 (228) 1200      F A X : 059 (225) 4511
ホームページURL	<a href="http://www.miegyoren.or.jp/">http://www.miegyoren.or.jp/</a>
E-mailアドレス	info@miegyoren.or.jp
業務概要 設置目的	<p>三重県漁業協同組合連合会は、水産業協同組合法に基づき、漁業者の生活向上を目的に設立。</p> <p>食糧産業としての使命を自覚し、さまざまな事業に取り組んでいます。近年では、環境保護に対する取り組みを最重要テーマと考え、「海と川を美しくする運動」や「漁民の森造成事業」を漁業者とともに取り組んでおり、より良い漁場づくりを推進することで、安全で良質な水産物を安定的に供給できるよう、日々努力を続けています。漁業者の立場を基本に一般消費者や他産業の方々との海との関わりも視野に入れ、新たな可能性について挑戦し続けています。</p>



財団法人 三重県農林水産支援センター

名称	財団法人 三重県農林水産支援センター
所在地	〒514-1101 三重県津市久居明神町2501-1 三重県久居庁舎4階
	<b>交通アクセス</b> 近鉄久居駅下車 徒歩25分 伊勢自動車道久居インターから約3分
TEL/FAX	T E L : 059 (259) 0850      F A X : 059 (259) 0862
ホームページURL	<a href="http://www.aff-shien-mie.or.jp/">http://www.aff-shien-mie.or.jp/</a>
E-mailアドレス	info@aff-shien-mie.or.jp      ((財) 三重県農林水産支援センター) ninaite3@aff-shien-mie.or.jp      (就業相談)
開館時間	月曜日～金曜日 午前 8時30分～午後 5時15分
	休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
業務概要 設置目的	農林水産業の担い手や後継者の確保、効率的な事業体育成、さらには地域内産品の需要拡大の促進等、農林水産業の推進を支援。





## 三重県公民館連絡協議会

名 称	三重県公民館連絡協議会
所在地	〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234 三重県生涯学習センター内
	<b>交通アクセス</b> 三重交通バス 三重県総合文化センターバス停下車 徒歩1分
TEL/FAX	T E L : 059 (231) 1187 F A X : 059 (231) 1190
ホームページURL	<a href="http://sankouren.com/">http://sankouren.com/</a>
E-mailアドレス	sankouren@nifty.com
開館時間	火曜日～金曜日
	休館日：月曜日、土曜日、日曜日、祝日、年末年始
業務概要 設置目的	三重県内の公民館活動の普及および振興並びに公民館相互の連絡提携を図り、生涯学習の推進、社会教育の充実発展及び文化の向上に寄与することを目的としている。



## 三重県PTA連合会

名 称	三重県PTA連合会
所在地	〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234 三重県生涯学習センター内
	<b>交通アクセス</b> 三重交通バス 三重県総合文化センターバス停下車 徒歩1分
TEL/FAX	T E L : 059 (233) 1163 F A X : 059 (233) 1164
ホームページURL	<a href="http://www.miepta.com/index.html">http://www.miepta.com/index.html</a>
E-mailアドレス	mie-pta@pcs.ne.jp
業務概要 設置目的	PTAは、県内各地の小学校や中学校におけるPTA活動を通して、社会教育、家庭教育と学校教育との連携を深め、青少年の健全育成と福祉の増進をはかり、社会の発展に寄与することを目的とした社会教育関係団体です。





**社会福祉法人 三重県社会福祉協議会**

<b>名称</b>	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
<b>所在地</b>	〒514-8552 三重県津市桜橋2-131 三重県社会福祉会館内
	<b>交通アクセス</b> 近鉄・JR津駅下車 徒歩7分
<b>TEL/FAX</b>	T E L : 059 (227) 5145      F A X : 059 (227) 6618
<b>ホームページURL</b>	<a href="http://www.miewel.or.jp/">http://www.miewel.or.jp/</a>
<b>E-mailアドレス</b>	mvc@miewel.or.jp
<b>業務概要 設置目的</b>	<p>三重県における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的に、各市町を通ずる広域的な見地から、社会福祉を目的とする事業に従事する者の養成及び研修、社会福祉を目的とする事業の経営に関する指導及び助言、市町社会福祉協議会の相互の連絡及び事業の調整などを行っている。</p>



**財団法人 三重県母子寡婦福祉連合会 (三重県母子家庭等就業自立支援センター)**

<b>名称</b>	財団法人 三重県母子寡婦福祉連合会 (三重県母子家庭等就業自立支援センター)
<b>所在地</b>	〒514-8552 三重県津市桜橋2-131 三重県社会福祉会館内
	<b>交通アクセス</b> 近鉄・JR津駅下車 徒歩7分
<b>TEL/FAX</b>	T E L : 059 (228) 6298      F A X : 059 (225) 5874
<b>ホームページURL</b>	<a href="http://www.za.ztv.ne.jp/boshikafu/">http://www.za.ztv.ne.jp/boshikafu/</a>
<b>E-mailアドレス</b>	boshikafu@za.ztv.ne.jp
<b>業務概要 設置目的</b>	<p>県内の各母子寡婦会をもって組織し、母子家庭及び寡婦の総合的福祉増進をはかることを目的としている。</p> <p>また、三重県から委託され就業相談の実施、就業支援講習会の開催、就業情報の提供等の就業支援サービスを提供等の従来の事業に加え、就労の斡旋、紹介等を行うため、厚生労働大臣の許可を受けて、職業紹介所を開設し、母子家庭の母等に対して、就業相談や就業支援講習会の実施、就職情報の提供など一貫した就業支援サービスや生活支援サービスを提供し、母子家庭の自立を支援している。</p>



## **女性のチャレンジ事例集 2007**

---

平成20年3月発行

**三重県生活部男女共同参画室**

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

TEL 059-224-2225

FAX 059-224-3069

---